

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	総務常任委員会
委員名	中鉢和三郎, 加川康子, 法華栄喜, 佐藤弘樹, 氏家善男, 木内知子
日時	令和4年10月24日(月)～令和4年10月26日(水)
視察先	1. 福岡県飯塚市 2. 熊本県八代市 3. 熊本県熊本市
出席者 (説明者)	1. 福岡県飯塚市 市民協働部男女共同参画推進課 永野知美課長, 池部智恵主査 2. 熊本県八代市 教育委員会学校教育課 田北佳一郎課長, 寺本直史指導主事兼係長, 有働有里子指導主事 3. 熊本県熊本市 熊本市教育センター 小田浩之所長, 田中聖哲指導主事, 工藤照彦指導主事

2. 視察内容

視察項目	1. イクボス推進事業について(福岡県飯塚市) 2. 小中一貫連携教育の取組について(熊本県八代市) 3. ICT教育の取組について(熊本県熊本市)
視察内容 【質疑応答】	1. イクボス推進事業について(福岡県飯塚市) (1) イクボスとは何か 職場で共に働く部下, スタッフのワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を考え, その人のキャリアと人生を応援しながら, 組織の業績を出しつつ, 自らも仕事と私生活を楽しむことのできる上司(経営者・管理者)のことである。(男性に限らず, 女性管理職も対象) (2) 取組の背景と目的 全国的に深刻な人口減少, 少子高齢化, 労働力人口の減少という問題を抱える中, 飯塚市で起きている労働力人口の激減, ベテラン職員が介護離職を余儀なくされるという大介護時代の到来, 若者の地元流出等を考えた時, 選ばれる企業をつくること, 住みたくなる町, 住み続けたくなるまちづくりをするために, 各地で広がりつつある「イクボス」推進の波に乗り遅れないために取り組むこととした。 (3) イクボスのメリットと効果 イクボスになるための10か条があり, 実践することにより, ①優秀な人材の確保(採用), 離職率の低下, ②労働生産性の向上, 新たな商品開発, ③情報の共有化, チームワーク強化, ④社員のモチベーションアップ, メンタルヘルス疾患などの減少が挙げられる。 (4) 効果の例 ア 残業が毎日のように夜中まであり, 寝不足が続く マネージャーが相談に乗り, 無駄な作業の減少で残業が週1回になる。 イ 親が急に倒れて入院し, その後の介護生活が不安 社員との面談で, 出勤時間を配慮される。 (5) 取組状況 ア 平成28年7月「飯塚市女性の労働状況に関する事業所調査」を実施 ① 地域の実情と課題が判明 ② 中小企業等小規模な事業所が多く, 慢性的な人材不足の課題を抱えながら, 人的・経済的余裕がなく, 個々の事業所による取組を進めることは困難な状況であること ③ ワーク・ライフ・バランスの推進に不可欠なワーク・ライフ・バランスに対する認識・理解度に事業所間の差があること。

④ 市内事業所で取り組むためには、市が模範にならなければ説得力がないことを確認する。

イ 市長はじめ特別職による「イクボス宣言」（平成30年4月19日）

ウ イクボスマニュアルの作成

エ イクボス養成研修会

① イクボス養成研修会（事業所対象）41社，60名参加

② イクボス養成研修会（市職員対象）管理職員57名参加（対象63名）

オ I I Z U K Aイクボスマガジン「嘉飯桂取組事例集」作成

① 飯塚市，嘉麻市，桂川町における女性の活躍を推進し，働き方改革に取り組んでいる企業8社の取組内容等を掲載した啓発冊子

カ イクボス事例発表会（3社発表）17社，44名参加

キ 嘉飯桂イクボス同盟設立式

(6) 令和元年度事業の概要

ア イクボス養成研修会（職員対象）80名（事業所対象）28社45名

イ イクボスフォローアップ研修会（2回）44社，56名

ウ イクボス事例発表会（2社発表）20社，26名

エ I I Z U K Aイクボスマガジン（嘉飯桂取組事例集）part2作成

(7) 令和2年度事業の概要

ア イクボス養成研修

（事業所対象）33社，42名（市町職員対象）192名

イ イクボス部下研修 20社，28名

ウ イクボス広報誌の作成

新型コロナウイルス感染拡大に伴い，緊急事態宣言が発令され，1月予定の事例発表会中止のため，発表予定の事業所3社の取組を掲載した。

エ I I Z U K Aイクボスマガジン（嘉飯桂取組事例集）part3作成

(8) 令和3年度以降のイクボス推進事業

ア 庁内での取組

① 課長職職員のイクボス宣言式（令和4年4月26日）

管理職一丸となり，庁内の働き方改革に取り組むことを宣言し，イクボスが誕生

② 職員向けのイクボス研修

③ 管理職向けイクボス研修

上司が働き方改革を率先して行うにあたっての意識面に働きかける研修。

（参考）平成30年度 部次長，課長職に研修実施

令和元年度 新任課長，課長補佐職に研修実施

令和2年度 新任課長補佐，係長に研修実施

イ 部下職員向けの研修

① イクボス部下デカラ研修

業務効率化のための具体的手法や，部下から上司へ業務効率化の提案などについての研修。

1) 令和3年度 会計年度任用職員，再任用職員を除く一般職の正規職員全員に研修実施

② 課長職，課長相当職の職員にイクボス宣言を行ってもらう

(9) 市内事業者向けの取組

ア 令和3年度より企業向けイクボス研修動画を飯塚市公式Y o u T u b eで配信

イ 飯塚市契約課の主観点数加算対象研修に企業向けイクボス研修が認定

① 令和3年度は43社の事業者がY o u T u b e動画を見て新規にイクボス宣言を実施（それまで1年間に10社程度の宣言）

→市内事業者に、働き方改革、女性活躍の取組を周知し、関心をもってもらうことができた。

ウ 飯塚市IKUBOSS NEWS

市内事業者の働き方改革、女性活躍の取組を紹介するために作成し、公共施設、郵便局等で配布している。v o l . 3 発行済み

(10) 実践例の視聴

ア 研修の講師であるNPO法人ファザーリング・ジャパン九州会員（国家公務員・男性）の実践例を説明後に視聴した。

会員は500名。会のミッションは「よい父親」ではなく「笑っている父親」を増やすこと。「父親を楽しもう」ということだと語っている。

イクボス実践の結果、以下の改善点が挙げられていた。

- ① 育児に不安なく、対応できるようになった。
- ② 時間の感覚が変わり、残業が月100時間から1時間から5時間に減少した。
- ③ 健康になり、仕事の判断が早くなり、仕事がうまくまわせるようになった。

(11) 質疑応答

問：課長以上の「イクボス宣言」で考え方は変わったか。

答：部下の話をよく聞くようになった。残業をしない取組がされている。

問：本市でも特に予算編成時期は、夜中まで庁舎に電気がついているが、部下より上司の考えが大事だと思うがいかか。

答：イクボスの意識を植えつけることを主眼に置いている。時間については人事課で把握し、改善に向けて進んでいる。育児休暇を年代別に整理し、育児休暇を取りたいという若い職員のために、業務の平準化を行っている。

問：病休での離職率が問題になっているが効果は出ているか。

答：数字は把握していないが、5年に1度の市民意識調査を実施している。企業では実施されていない。

問：課長以下のイクボスの理解、浸透状況はいかか。

答：来年度（令和5年度）にアンケートを実施したい。

問：これからイクボスに取り組む自治体にアドバイスをお願いしたい。

答：企業のイクボスへの参加、働きかけだけでは伝わらない。まず、市役所内で実践し、頑張る姿を示すことが説得力につながる。

2. 小中一貫連携教育の取組について（熊本県八代市）

(1) 概要

現在の学校配置は小学校が23校(分校1校)、中学校15校となっているが、「学びの連続性」を観点に八代型小中一貫教育を展開している。

導入前の課題として、中1ギャップに悩む生徒や、小中教員の教育観や学力観の相違が見られたことが挙げられる。

そこで、学習指導の観点から小学校での教科担任制や小中学校の教職員協働によるTT授業などの多様な学習形態の仕組みを確立した。

その結果、学習意欲の向上が見られるなどの効果を発揮している。

また、生徒指導の観点からは、9年間を見通した継続性のある指導を行うことで、「育ちの連続性」を図っている。

今後の課題として、学力や体力面での具体的変容が見えにくい状況であり継続的な取組が必要であるほか、学校同士が遠距離にある場合での、乗り入れ授業について予算面からも継続には厳しい状況が続いているとのことであった。

(2) 八代型小中一貫教育のねらい

小中連携の第一歩は各中学校区の課題をもとに「目指す15歳の姿」を校区

で共有することである。

(3) 導入に向けての留意事項

- ア 「学校規模適正化基本計画」及び「学校施設耐震化計画」との関連を配慮し十分に調整を図りながら推進するとしての規模の適正化
- イ 全ての学校関係者及び地域住民への周知を図り、学校、保護者及び、地域が共通理解のうえ一体となって取り組むとした地域住民との関係強化
- ウ P T A等各種団体との連携

(4) 取組のキーワード

- ア 先生をつなぐ
- イ 子供をつなぐ
- ウ 地域をつなぐ

(5) 質疑応答

問：八代型の小中連携教育に取組時に大きな課題はなかったのか。

答：住民自治協議会や中学校区の連携協議会が協力してくれたので、大きな問題はなかった。

問：学校への協力体制等、地域との関係はどうか。

答：地域学校協働活動（応援団）として、年間数回集まって、校区の見守りなどたくさん関わってくれている。

問：小中一貫だと、9年間の学校生活になるが、不登校の問題はないか。

答：適応教室を1校設けているのと、状況に応じて指定校変更を認めている。

問：オリジナルの一貫教育だが、モデルがどこかにあるのか。

答：特例校や研究開発校はハードルが高いので、できることから着手するという観点で取組がスタートしている。

問：保護者の方の協力体制はどうだったか。

答：批判的な意見はなかった。

3. I C T教育の取組について（熊本県熊本市）

熊本市におけるI C T教育の取組状況及び今後の課題点、情報化推進における環境整備について視察を行った。

(1) 取組状況

ア 概要

熊本市は小学校92校（児童数40,617人,1,669学級）、中学校42校（生徒数19,431人,713学級）、i P a dセルラーモデルを導入。「教師が教える→子どもが主体的に学ぶ」授業へ改善するためI C T活用。令和2年の一斉休校時は、全小中学校でオンライン授業を実施。令和3年度はライブ配信による学習サポート、令和3年度から不登校児童生徒へのオンライン授業を開始。

イ 教育I C T整備の理念、目的の明文化と発信

「何のためにI C Tを導入するか」「目指す子どもの姿、目指す授業」を積極的に情報発信し関係者と共有化している。

教育センター所長、副所長が目的説明するため、全校訪問。

ウ 「産官学の連携」

I C T教育の推進にあたり熊本大学、熊本県立大学、N T Tドコモ、熊本市の4者で教育情報科の推進に関する連携協定を2018年に締結。

(協定に基づく連携事項：①I C T活用のための知識習得、ノウハウの共有 ②I C T活用モデルカリキュラムの開発 ③プログラミング教育普及のための取り組み④協定の成果となる「教育I C T活用推進書」の策定)

エ 教育の情報化に関する研修、支援体制の構築

各学校に「情報化推進チーム」を設立、推進リーダー、サブリーダーメンバーと複数の教員で情報化推進チームを編成し、特定の教員の負担増を減らすと同時に、次世代リーダーを育成することで、持続的な体制づくりをする

仕組みになっている。

オ 研修の充実化

集合研修（オンライン研修）として、階層別（担当者、推進チーム、推進リーダー、管理職）、悉皆研修、自主研修などの研修メニューを用意。また、訪問研修として、訪問型の研修を行い、各学校のオーダーにできる限り応じた研修を実施し、学校、教員の支援を行っている。

カ 情報通信技術支援員（ICT支援員）の増員による支援体制を強化。

平成29年度当初12名→令和3年度22名。少なくとも1校にあたり月3回（半日）は学校訪問できる体制としている。

キ Microsoft Teamsを活用した教員間のダイレクトな情報共有を各学校で実践している。ICT活用の事例や困りごとなどをMicrosoft Teamsを活用し、教員間で情報共有、問題解決方法の共有などを行い、スピーディかつ実践的に課題共有、解決に取り組める状況となっている。

ク 授業の改善

ICT活用は、授業改善を目的としている。より主体的、対話的で深い学びをするために、活用することを共通認識としている。子どもたちがICT機器を使って学ぶ上で、教員は「何を教えるか」ではなく「何を教えないか」へ意識をした授業改善を行っている。

(2) 環境整備

ア iPad（小中学校 1人1台）

イ Chromebook（高等学校 1人1台）

ウ 大型提示装置／実物投影装置（小中学校 普通教室 各1台）

エ オンライン配信用WEBカメラ（小中学校 普通教室 各1台）

オ Wi-Fi小中学校はセルラーモデルを導入しているが、高等学校はWi-Fiモデルのため、学習者用のWi-Fi環境を整備。端末整備に合わせて、家庭にWi-Fi環境がない場合の貸し出し用モバイルルーターも整備（通信SIMは家庭負担）

カ オンライン授業に関する環境整備

キ Zoom教員用ライセンス（教育用有償ライセンス500契約。学校に展開）

ク 授業目的公衆送信補償金（令和3年度から公立学校及び教育センター分の補償金を支払いし、安心してオンライン授業で著作物を使用できるよう整備）

(3) 今後の課題

ア 学校間格差、教師間格差

学校間、教師間でICT活用度合いの格差は事実ある。全体的にスキルアップするためには、格差を埋めることなく、「活用できる教員のスキルを向上させる」ことに注力していく。結果的に全体的にスキルアップし、活用度合いが上昇していくことを狙っている。

イ 利便性とセキュリティのバランス

活用する上で、様々なアプリなどを使用するにあたり、継続的に利便性とセキュリティのバランスをとる必要がある。

ウ 学びの道具としてのタブレット

学習目的とは何か、教員、保護者にとって受け取り方は異なるが、タブレットを使わなくては正しい情報活用能力も備わらない。

使い方を「取り締まる」のではなく「危険性がある場合は、その危険性を伝える」など日常的に情報モラルを学ぶ機会として捉えている。

(4) 質疑応答

問：タブレット導入、整備にあたっての原動力はどこからきているのか。

答：教育長、市長からの声、そして現場の教師の熱い気持ちが合わさり、大き

	<p>な推進力となったと考えている。 研修の参加率も高く、教師が必要性を強く感じていることの現れと受け止めている。</p> <p>問：学習ログの把握、活用状況について、個人情報保護法でデータ収集の利用目的を示して収集しているか。</p> <p>答：ログイン率、データ使用量のログは取れているが、ドリルの正答率など学習傾向の把握はまだできていない。 また、授業動画などを継承したいが、まだ整理ができていないため、今後整理していく予定である。</p> <p>問：タブレットの使用や持ち帰りなど、保護者に対して理解を求めるにあたって苦慮した点は。</p> <p>答：まずは各学校の管理職から使い方、目的を説明。持ち帰りしない方を求める保護者については一旦気持ちを受け止め、徐々に持ち帰りのメリット等を丁寧に説明していくことで理解をいただいている。</p> <p>問：ICT教育を推進する上では、教員にとってICTを活用するメリットを感じてもらうことが必要だと考えているが、熊本市ではどのようにして活用のメリットを教員に伝えていたのか。</p> <p>答：特にメリット、ということで伝えてはいないが、教員もICT機器の活用による学習効果を感じ、推進できたと捉えている。</p>
<p>考 察</p> <p>【所感・課題・提言等】</p>	<p>1. イクボス推進事業について（福岡県飯塚市） 本市職員の勤務状況をみる時、長時間の残業改善は喫緊の課題である。若い世代の働く価値観の変化等から、単に制約のある職員に配慮し、働きやすい職場にするだけではなく、部下に仕事を任せ、能力を最大限に発揮させる働きがいのある職場づくりをするために、飯塚市の「イクボス」の取組は大変参考となった、</p> <p>2. 小中一貫連携教育の取組について（熊本県八代市） 小中一貫・連携教育を実施するに当たり、「地域の実態に即して無理なくできる」、「共通して行える項目から」、「地域の協力を得る」という理念で、「どういいう15歳になって欲しいか」という基本方針で、実現に向け実施された取り組みは、これから大崎市が目指していく小中一貫・連携教育の基本となると感じた。 八代市の課題も踏まえ、委員会において今後の議論の参考にしていきたい。</p> <p>3. ICT教育の取組について（熊本県熊本市） 教育センターがICT機器導入の理念、目的を明文化している点が非常に重要だと感じる。 全学校が共通認識を持って教育の情報化に取り組むべく、教育センター所長、副所長が全学校に訪問し説明し、積極的に情報発信している。 これは手段の目的化を防ぐとともに、市としてどのような教育を行い、どのような子どもたちを育成しようとしているのか、その指針を市、教育センター。学校、保護者、生徒児童に伝わり、関係者が同じ方向を向いて熊本市の教育の情報化を推進する大きな原動力となっている。 この前提があるからこそ、様々な研修や取り組みが進んでいくものと考え。学校、教員への研修充実化を含め、教育センターの支援の力は大きい。 学校や教員がそれぞれICT活用を推進することも必要であるが、その推進する上で必要となるモノ、人、情報などの仕組みを整えるのは教育センター（教育委員会）であり、相互の協力があるからこそ前進するはずである。 また、熊本市ではICT機器を使用して失敗することを「是」としている。間違っ使用してしまったり、破損してしまうことは当然であり、一見すると失敗に見えることも一つの事例として受け止め、積極的に使用することを推奨してい</p>

る。このスタンスは学校や教員だけでなく、使用する児童生徒や保護者にとっても活用への心理的な負担を減らすため、活用を促すためにICT教育を推進し、子どもたちの主体的で対話的な学びを推進するために、大崎市においても、教育委員会から学校、教員、保護者へICT教育推進の理念、目的を継続的、積極的に教育委員会が情報発信を行う必要がある。その上で、学校、教員のICT教育を推進する上で必要な体制づくりを行い、学校、教員を支援する必要があると考える。

その体制づくりにおいては、教育委員会単独で行うのではなく、東北大学をはじめとする大学の協力や、民間企業と連携を組む等、外部組織と協力し、スピード感を上げて実行する必要があると考える。

以上